

口は健康のもと Vol.114

処方薬と歯科治療 服用薬情報が重要

近年、狭心症や心筋梗塞、脳卒中（脳梗塞）で「抗血小板薬」や「抗凝固薬」を処方されている患者さんが歯科医院を受診される機会が非常に多くなっています。これらの病気の治療のために使用されるのが「血液をサラサラにする薬」で「抗血小板薬」や「抗凝固薬」と呼ばれるものです。

「抗血小板薬」の代表的な薬が「アスピリン」です。少量で血小板の働きをおさえて、血液が固まるのを防ぐ作用をします。次に「抗凝固薬」の代表的な薬が「ワルファリン」です。血管内で血液が固まり、血流を止めてしまう状態を「血栓」といい、その予防のために使用されています。

以前は抜歯やインプラント手術等の出血を伴う歯科処置の際に止血がしづらくなるという理由で、これらの薬を休薬することがありました。現在は処方対象の病気を引き起こしてしまうおそれもあり、処方薬の変更や休薬をしないで歯科的治療を行うようになってきました。

服用している薬の情報は大変重要です。歯科治療の際には歯科医師に服用薬を伝え、指示に従ってください。



奥羽大学歯学部附属病院

口腔外科 講師 馬庭 暁人

